

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議 実施報告

日 時	<p>【第1回】平成27年7月21日（火） 午後7時～8時30分</p> <p>【第2回】平成27年12月8日（火） 午後7時～8時30分</p> <p>【第3回】平成28年2月29日（月） 午後7時～8時30分</p>
場 所	南巨摩合同庁舎3階大会議室
目 的	在宅療養を希望する者が、住み慣れた生活の場において必要な医療・保健・介護サービスが受けられるように、医療・保健・福祉従事者が協力しサポートしていく体制の構築を図る。平成26年度に設置された。
内 容	<p>【第1回】</p> <p>(1) 平成26年度事業報告・平成27年度事業計画について</p> <p>(2) 医療と介護の連携について</p> <p>①医療と介護の連携に係る情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅患者情報共有システム（KOMET）について ・在宅医療チーム形成促進事業について <p>②グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能を活かすの視点で医療と介護の連携推進について <p>③全体発表・意見交換</p> <p>【第2回】</p> <p>(1) 病院機能と地域の機能で在宅生活をどう支えるか</p> <p>①地域での生活を支える峡南地域での取組紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病床に関する情報提供 ・市川三郷町あったらいいなを実現するための仕組みづくり研究会の取組 <p>②グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・峡南地域でその人らしく生活を継続していくために、どのように生活を支えていくか <p>③全体発表・意見交換</p> <p>(2) 多職種人材育成事業、在宅医療普及啓発事業の報告</p> <p>【第3回】</p> <p>(1) 各町における地域支援事業等の取組について</p> <p>①地域包括ケアシステムの推進に係る動向</p> <p>②各町からの取組と今後の方向性の報告</p> <p>(2) 全体意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間を振り返り、会議への感想や今後の会議への期待について <p>(3) 在宅医療普及啓発事業の報告</p>
出席者	【第1回】委員23名 【第2回】委員21名 【第3回】委員23名

第1回在宅医療多職種人材育成研修会 実施報告

日 時	平成27年10月15日(木) 午後7時～9時
場 所	鯉沢福祉センター 3階ホール
主 催	峡南保健福祉事務所
共 催	峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議
目 的	昨年度より、多職種連携の課題として継続して挙げられている「医療(医師)との連携」、「各職種の役割の理解」、「連携の工夫」について、峡南地域の事例をもとに多職種で顔の見える関係づくりを行いながら、互いへの理解を深め、検討できる機会とする。
内 容	<p>事例検討会</p> <p>〈講師・コーディネーター〉 山梨県立大学 看護学部 教授 佐藤悦子 先生 〈事例提供者〉 やさしい手鯉沢事業所 介護支援専門員 井上菜穂子 氏</p> <p>【講義】協働・連携を図るときのポイント</p> <p>①目標の共有化 → 自立支援の方向性 支援とは、その人の力でその人の人生を生きる事への手助け</p> <p>②情報のタイムリーな共有化 → 情報共有の仕組みづくり</p> <p>③ポジショニングの明確化 → 互いの役割の理解と尊敬</p> <p>④信頼関係 → 円滑なコミュニケーション 熱意</p> <p>【事例検討】多職種でグループ分けを行い、以下の視点で事例検討を行った。</p> <p>◎認知症で退院後の地域での生活に不安がある事例(症状悪化のため入院) 視点①: 認知症の療養者への環境の整え方(対応も含めて)について 視点②: 関わるメンバーの役割・連携について 視点③: 地域におけるネットワークづくりについて</p>
参加者	<p>計100名 (保健福祉事務所職員を含む)</p> <p>【参加者が多かった職種】 *%は保健福祉事務所職員・講師を含めずに算出 介護支援専門員 23名 (26.1%)、看護師 22名 (25.0%)、介護職 14名 (15.9%)</p>
成 果	<p>○研修への参加目的では、多職種との連携方法を学ぶ、顔の見える関係を築き今後の連携に活かしたいという意見が多く、昨年度よりも参加人数が増加したことからも、関係者の多職種連携への意識が高いことが分かった。</p> <p>○今後も継続した事例検討による研修会の開催を希望する声も多く、多職種との交流の場や、広域的な人材育成事業に対する期待が寄せられている。</p> <p>○参加者の「各職種の役割や視点について知る」という項目の達成度が高く、本研修会が多職種との情報共有や意見交換の場となり、互いへの理解を深める一助になったと考えられる。</p>

第2回在宅医療多職種人材育成研修会 実施報告

日時	平成27年11月24日(火) 午後5時～午後7時
場所	鯉沢福祉センター 3階ホール
主催	峡南保健福祉事務所
共催	峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議 市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町
目的	<p>地域包括ケアの構築を推進するためには、各関係者がそれぞれの専門的視点で、個別支援の協議からでた課題を地域の課題に結びつけ、体制づくりに繋げていくことが重要である。</p> <p>峡南地域の保健医療福祉従事者が一堂に会し、地域包括ケアシステム構築の具体的方策について研修することで、峡南地域における地域包括ケアシステム構築が推進されることを目的とする。</p>
内容	<p>1. 平成26年度当該研修会の内容、研修会で明らかになった峡南地域の課題等の確認</p> <p>2. 地域包括ケアシステム構築の具体的方策についての学習</p> <p>1) 地域包括ケアシステム構築についての取組み発表 発表者：道志村役場 住民健康課 宮下 美恵子 保健師</p> <p>2) グループワーク 管内町ごとにグループ分けを行い、現在町で課題となっていること、または検討途中のテーマなどを設定し、町職員がファシリテーターとなり、話し合いを実施</p> <p>3) 発表(全体共有)</p> <p>4) まとめ コーディネーター：山梨学院大学 法学部政治行政学科 竹端 寛 教授</p>
参加者	<p>計96人 (保健福祉事務所職員等を含む)</p> <p>内訳：医師2人、歯科医師1人、介護支援専門員21人、保健師14人、看護師11人、福祉職(社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事等)6人、社協事務職5人、行政事務職4人、訪問介護サービス提供責任者3人、通所介護生活相談員3人、MSW2人、PT・OT2人 その他4人(歯科衛生士、臨床検査技師、介護者)、職員等18人</p>
成果	<p>○道志村の取組み発表を聞いて、地域包括ケアシステム構築に向けた取組みについてイメージ化を図ることができた。</p> <p>○グループワークのテーマの選定、ファシリテーターの選出、話し合いのすすめ方等について、管内の各町が主体的に考え運営をするなかで、テーマに沿った話し合いをすることができた。</p> <p>○事後アンケートの中で、研修内容を、今後町の地域包括ケアシステム構築への取組みや、それぞれの職場での業務に活用できそうと全体の80%の参加者の回答があった。</p> <p>○今後の希望について、当該研修の継続開催や、もう少し小さい単位(町単位)での話し合いを希望する意見が寄せられた。</p>

在宅医療普及啓発事業「在宅医療・ケアを考えるつどい」実施報告

日 時	平成28年2月11日(木) 午後1時30分～4時
場 所	身延町総合文化会館 ホール
主 催	峡南保健福祉事務所
共 催	市川三郷町・早川町・身延町・南部町・市川三郷町 峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議
目 的	住民が在宅療養のイメージが持てるとともに、在宅療養を支える地域づくりを進めることへの理解を深める機会とする。
テーマ	自分らしく生ききることを、共に語ろう
内 容	<p>【第1部】地域の様子の紹介</p> <p>コーディネーター 身延山病院 医師 萩原 淳 先生</p> <p>発表者</p> <p>富士川町在住 内池 宣子 さん 早川北小学校 児童会長 池田 鼓志朗 さん 南部町在住 萩原 健治 さん 市川三郷町地域包括支援センター 保健師 渡邊 まゆみ さん</p> <p>◎日頃の活動、自身の体験の紹介、それらを通して在宅医療とそれを支える地域について考えること、感じていること等を発表。</p> <p>【第2部】講演</p> <p>「地域で暮らし続けるために ～どう生きたいかを地域で支える～」 講師 在宅ケア移行支援研究所 代表 宇都宮 宏子 先生</p> <p>◎望む場所で暮らし、最期の時まで望む場所で生ききるための、個人としての心構え、医療・介護関係者の支援の在り方等について講演。</p>
参加者	計273名(関係者を含む) *内訳は別紙参照 【内訳】(n=252 関係者を除き算出) *所属無記載のものは一般として計上 一般144名(57.1%) 関係者108名(42.9%)
成 果	<p>○多くの住民の参加が得られたことから、普及啓発の目的は概ね達成できた。(前年度比:28.0%→57.1%へ上昇)住民の在宅医療への意識・関心が高まっていると思われる。</p> <p>○在宅療養のイメージについて、「できた」「少しできた」との回答が95%に達し、内容に具体的な事例を複数交えたことで、より理解を深める機会になったと考えられる。</p> <p>○アンケート結果からも、在宅療養の現実の厳しさを感じながらも、自宅で最期を迎えたいと希望する人が多いことが分かった。</p>

平成27年度在宅医療・ケアを考えるつどい 参加者の状況

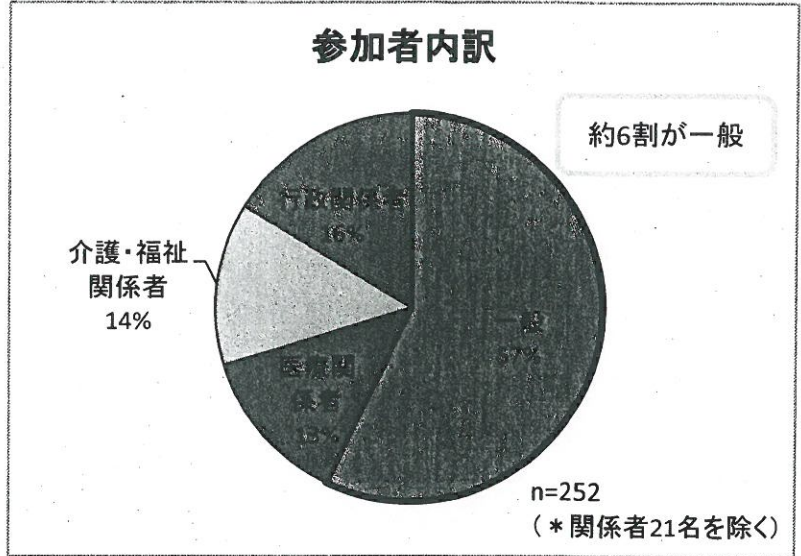
H28.2.11開催

* 参加者名簿より集計

参加者内訳 所属無記載のものは一般として計上

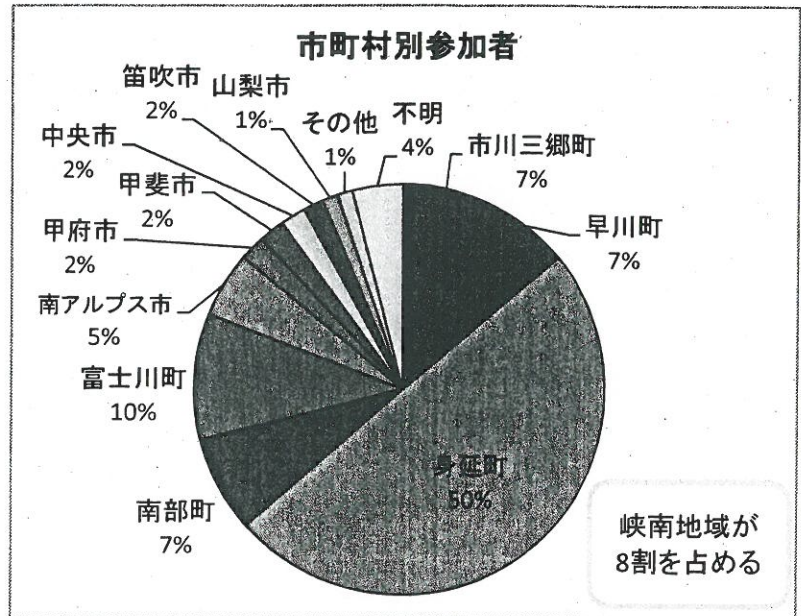
種別	人数	%
一般	144	57.1%
医療関係者	33	13.1%
介護・福祉関係者	34	13.5%
行政関係者	41	16.3%
	252	100.0%

関係者	
登壇者	6
	2
保健福祉事務所	13
合計	273



市町村別参加者

市町村	人数	%
市川三郷町	17	6.7%
早川町	18	7.1%
身延町	125	49.6%
南部町	19	7.5%
富士川町	25	9.9%
南アルプス市	13	5.2%
甲府市	5	2.0%
甲斐市	5	2.0%
中央市	5	2.0%
笛吹市	4	1.6%
山梨市	3	1.2%
その他	3	1.2%
不明	10	4.0%
	252	100.0%



□その他内訳

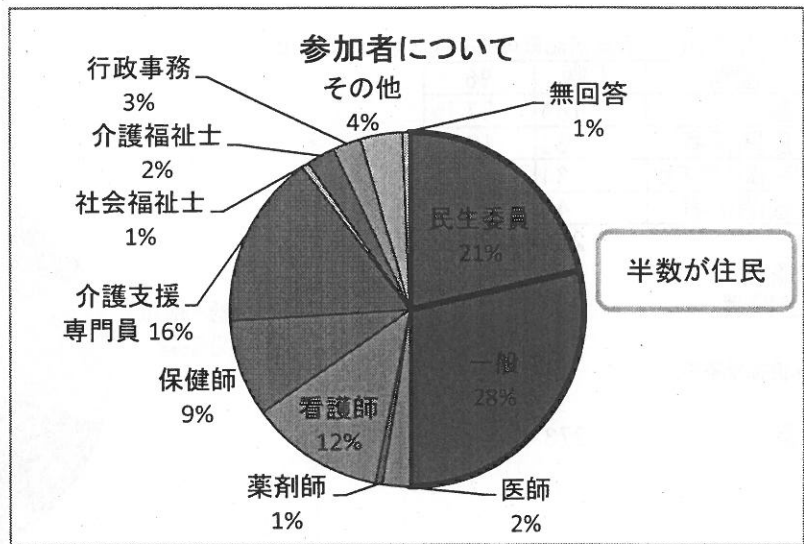
- 昭和町:1
- 韮崎市:1
- 北杜市:1

平成27年度在宅医療・ケアを考えるつどいアンケート結果

アンケート回収数:158
アンケート回収率:62.7%

1 参加者について

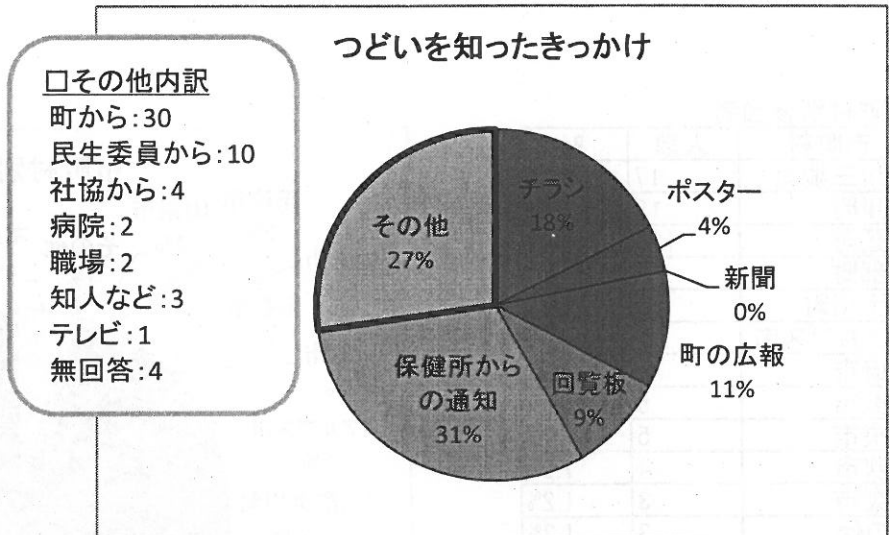
民生委員	34	21.5%
一般	45	28.5%
医師	4	2.5%
歯科医師	0	0.0%
薬剤師	1	0.6%
看護師	19	12.0%
保健師	14	8.9%
介護支援専門員	25	15.8%
社会福祉士	1	0.6%
介護福祉士	4	2.5%
行政事務	4	2.5%
その他	6	3.8%
無回答	1	0.6%
158		100.0%



2 つどいを知ったきっかけ

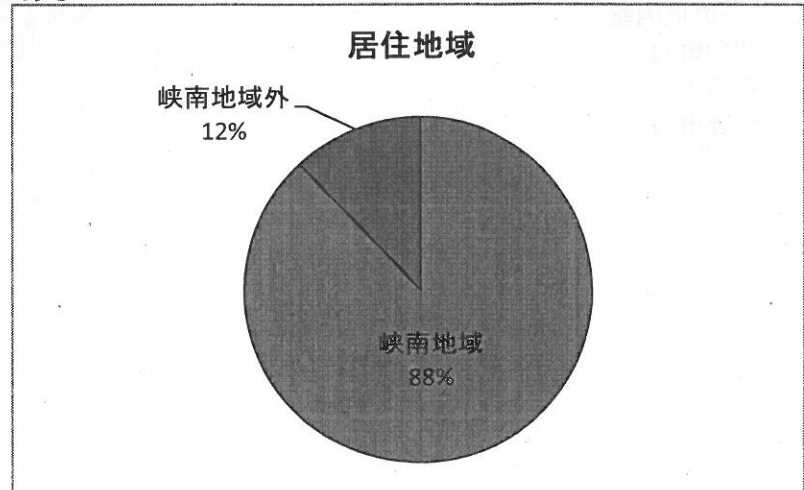
チラシ	33	17.6%
ポスター	8	4.3%
新聞	0	0.0%
町の広報	20	10.7%
回覧板	17	9.1%
保健所からの通知	58	31.0%
その他	51	27.3%
187		100.0%

* 重複回答あり



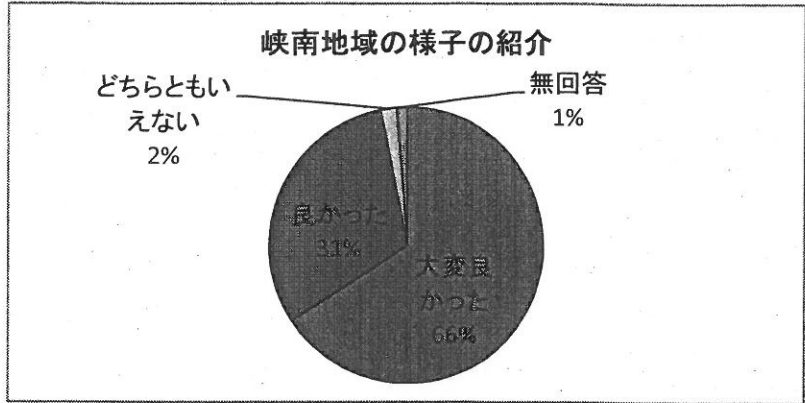
3 住まいまたは勤務地が峡南地域であるか

峡南地域	139	88.0%
峡南地域外	19	12.0%
158		100.0%



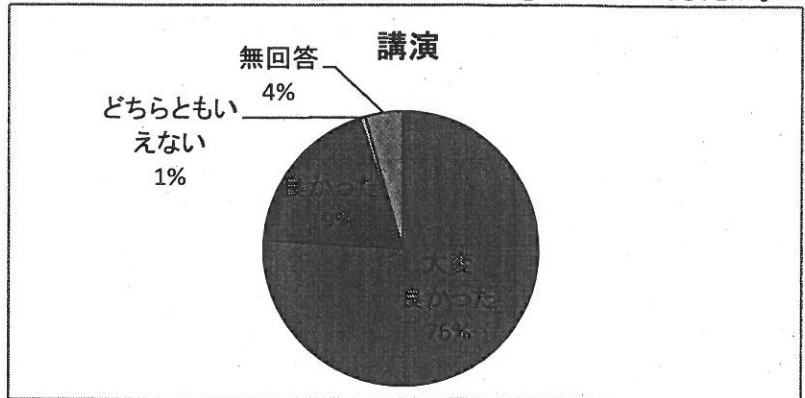
4 1) 「峡南地域の様子の紹介」はいかがでしたか。

大変良かった	104	65.8%
良かった	49	31.0%
どちらともいえない	3	1.9%
良くなかった	0	0.0%
無回答	2	1.3%
158		100.0%



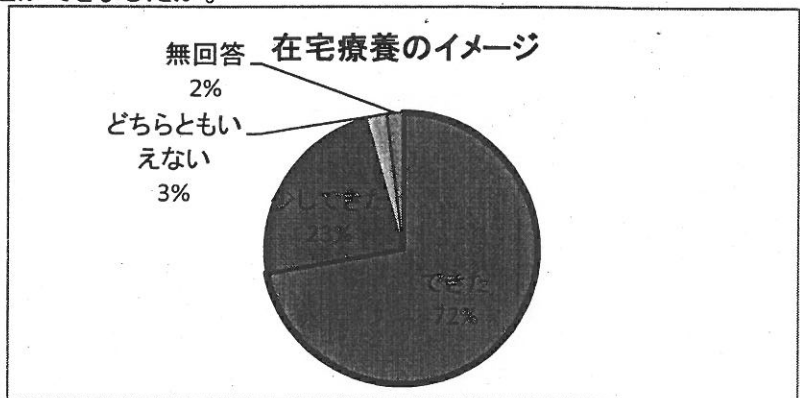
4 2) 講演「地域でくらしつづけるために～どう生きたいかを地域で支える～」はいかがでしたか。

大変良かった	120	75.9%
良かった	30	19.0%
どちらともいえない	1	0.6%
良くなかった	0	0.0%
無回答	7	4.4%
158		100.0%



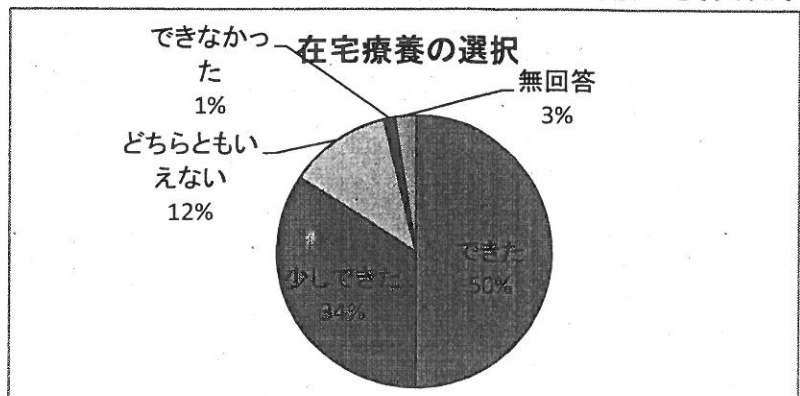
4 3)① 在宅療養をイメージすることができましたか。

できた	114	72.2%
少しできた	37	23.4%
どちらともいえない	4	2.5%
できなかった	0	0.0%
無回答	3	1.9%
158		100.0%



4 3)② 自身や家族などが医療を受けるときに、在宅などの住み慣れた環境で過ごすことや自宅での看取りなども選択肢にできそうですか。

できた	79	50.0%
少しできた	54	34.2%
どちらともいえない	19	12.0%
できなかった	2	1.3%
無回答	4	2.5%
158		100.0%



H28.2.11開催 平成27年度在宅医療・ケアを考えるつどい アンケート結果

* 68名より回答あり。一部を抜粋して記載。

No.	自由記載欄
1	全ての住民に参加してもらいたい。
2	義父を自宅で看取りました。本人も安心して穏やかに逝くことができたと思います。義母は元気ですが、94歳と高齢です。元気でゆったりとした時のタイミングをみて、最期の希望を聞きたいと思います。私も家で逝きたいと思っています。ありがとうございました。少し気持ちが楽になりました。
3	入院できる病院が近くにない、相談できる医療機関がないことが困る。高齢の親が死について話す事を嫌がっている、少しずつ話していければ良いと思っている。少しでも宇都宮先生の話につながっていければ良いと思う。自分自身もボランティアなどに一歩踏み出せない事にイライラすることがある。
4	主人が半年前に入院、10月末に退院しました。病院では自宅介護は無理と言われました。帰ってきてからケアマネさん、訪問看護師さん、訪問入浴を利用して過ごしてきました。皆さんに大変お世話になり、今少しずつ穏やかに暮らしています。
5	在宅医療は見た、聞いたで現実には難しい事も多いと思いますが、身内にはそうしてやりたいし、本人もそうして欲しいと思いました。何でも話し合える人も大切ですね。
6	在宅医療の在り方(特に延命治療)に以前より疑問を持っていたので、宇都宮先生の講演を聞いて、やっと自分の思っていることを実現してくれそうな方がこの世に現れてくれた!と思いました。
7	このような会を継続して欲しい。
8	また講演を聞かせていただきたいと思いました。本人の不在になることのないように、これからも自分の仕事を大切にしていきたいと思いました。
9	宇都宮先生の講演で地域で暮らし続けられるのは本人、家族の選択と心構えが大切だと教えていただきましたが、本当にそうだと思います。
10	外来で看護師として働いていますが、外来看護師としての関わり的重要性も十分に認識した上で常にアンテナを張って、患者さんに関わりたいと思います。なかなか、忙しい業務の中では難しい事もあるかと思いますが、必要性を考え、一歩ずつ関わることを増やしていければと思います。
11	ホスピス緩和ケア有床診療所で介護士として勤務しています。本日聴いた話は現実に実施していることが多く、嬉しく思いました。
12	自分としては自分の家で死を迎えたいと願っている。娘が2人いるが、嫁いでいて在宅医療は無理かな?とも思う。
13	宇都宮先生は本当に素晴らしい先生でした。話し方が分かりやすかったです。峡南にも先生のような方がいたらいいですね。
14	高齢化が今後もますます進行する中でやはり病は避けて通れぬ人の道であり、それには今まで以上に家族、地域のつながりが必要です。地方の良さを活かした田舎の良さを。
15	町としても最近では在宅看護、在宅介護について真剣に考えて推進しているように思います。宇都宮先生の講演は分かりやすく、大変参考になりとても良かったです。
16	在宅医療・ケアを望みますが、娘や息子が離れたところに住んでいるので看取ってくれるかどうか分からない。
17	人ごとではありませんね。支援の輪を広げていきたいですね。質を深めていきたいですね。
18	最近、姑を看取りました。訪問看護師さん、主治医の先生の訪問、入浴サービスを受けて1年2か月、とても有難く感じたので、今日のつどいに参加させてもらいました。宇都宮先生のお話が聞けて本当に良かった。
19	支える医療の仲間と病院、診療所との連携、協働が必要。
20	重い病気を持っている人、健康な人、全ての人が住み慣れた自宅で暮らせることがどんなに幸せなことか。しかし、現実には厳しく思い通りにはいかないような気がしますが、いろいろな支援サービスがあることを知り、今後に役立てたいと思います。ありがとうございました。
21	母をみるために東京から戻っているが、以前から自宅で看取りたいと思っていた。母もその希望が強いので、本日の講演を聞き、具体的事例が豊富で大変参考になった。
22	ご本人、ご家族の思いを引き出すこと。それを軸に支援をつくり連携をしていくことが大事。自分の親を送る時どうできるか、考えさせられた。
23	在宅療養はイメージできたが、訪問していただける医師がいない、支援するためのサービスが少ない。
24	看取りの分かっている入院患者さんの最期はモニターや点滴を全て外してあげる。家族が横に寄り添ってあげられるように。とても良い言葉だと思いました。私の勤務している病院でもそのような環境を作ってあげられたら良いと思いました。先生のお話はとても参考になりました。もっともっと多くの人に聞いてもらいたいと思いました。
25	同居している義父母・実母の老健施設入所中など仕事をしながら大変な日々もあるが、現実にはしっかり目を開き、見て、今まで以上の努力を続けていきたいと思います。

No.	自由記載欄
26	宇都宮先生の話はとても頷ける場面が多く共感しました。在宅に帰せる病院に期待します。
27	第1部も様々な方の経験等で大変良かった。第2部の講演は宇都宮先生の話がとても分かりやすく、ドラマのように視覚や聴覚をくすぐりました。自分の生き方をしっかり考えたいと思いました。
28	日頃、ケアマネをしています。ご本人の思いを置き去りにして周りの方の意見に流されている自分を強く反省しました。
29	私たちは仕事を通して「在宅での看取り」について理解しているつもりですが、在宅に興味がない人たちに少しでも振り向いてもらえるように、啓蒙活動をしていかなければと思います。私たちの地域にはまだ時間がかかりそうです。
30	大変勉強になりました。家族の人が介護が必要になったら出来るだけ自宅で介護していきたいと思っています。
31	自分の足りなかった視点に気付くことができました。1人でも多くの方が自分の望む生活ができるよう勉強し、実践していきたいです。
32	宇都宮先生の話に大変感銘を受けました。多くの医療職(病院)の人に話を聞いていただきたいと思いました。
33	人生の最期は住み慣れた自分に合った思いに近づくことを信じて生きていきたいです。
34	今なら見る事ができるが、自分が自立できなくなったら老老介護になってしまう。老いが恐ろしいです。病院は医師が一番話づらい。どのくらいかかるのか費用も心配になる。
35	自分らしく生きることの大事さを考え直しました。
36	私も自宅で亡くなりたい。
37	病院での看取り、自宅で看取り、何度か経験しましたがいずれにしても後になって、いつも何かもっと出来たのか大変後悔があり、何年経っても苦しい思いが残ります。医療関係者ではありませんが、理想と現実はずいぶん違います。
38	宇都宮先生心のこもった分かりやすいお話に感動しました。患者の気持ちを良く理解してくれている。
39	宇都宮先生の講演により在宅での生活のイメージが大きく変わりました。一般の方にも伝わり易かったと思います。ケアマネ、看護師にもやる気スイッチが入れられたように思います。
40	宇都宮先生の話は分かりやすく、今後自分の仕事をしていく上でもっと本人の意見を状況変化時、聞いていこうと考えました。その他、自己決定の大切さを知りました。
41	峡南地域の様子も参考になり良かったです。講義もとても良く宇都宮先生のお話はとても勉強になりました。今後もこのような講義をもっと聴きたいと思いました。
42	参加者も多く、意識の高さに感動しました。お話の内容も大変良かったです。またこのような会を持っていただきたい。
43	義父を自宅で送りましたが、その時は家族がそろっていたのでできましたが、小家族になってくると本当に大変だと思います。しかし、みんな自宅で送られたいと思います。それができることは皆さんの支えがあったことで条件が揃わないと本当に大変だと思います。
44	宇都宮先生のお話を今日聞いて本当に良かったです。今まさに退院(自宅で最期を迎えるため)の利用者に関わっています。明日からまたがんばります。
45	在宅介護で本人に寄り添う事が大切と良く分かったが、介護に携わる者の精神的な負担が大きく、ストレスによる落ち込みが大きい。ケアする精神科の医療機関の充実や組織の充実が必要に思う。
46	講演内容とても良かったです。一般の住民の知識が深く、広がることもとても重要だと思いました。みんながスキルアップですね。
47	兄の家族が在宅介護での看取りをし、大変さも見てきました。しかし、最期まで家に居られたことへの幸せ感もありました。私たちも2人住まいです。これからのことを考え、子どもたちにも自分の考えを伝えていきたいです。
48	お話が具体的で分かりやすくとても参考になりました。ありがとうございました。
49	地域の方々の発言がとても良かったです。児童の発言がじーんときました。えらいです。
50	家族2人の生活です。病気や入院した時の事、退院後、最期など家族で話し合っていく、子どもにも伝えておきたいと思った。大変良い講演でありました。